

制御棒1本落下、原因か

高浜4号自動停止直前に詳細点検

関西電力から15日、県に入った連絡によると、高浜原発4号機（加圧水型軽水炉、出力87万キロワット）の原子炉が自動停止したトラブルは、点検していた箇所に固定されていた制御棒1本が落下したことが原因である可能性が高いことが分かった。制御棒駆動装置の電気系統

に異常があるとみられ、関電は原因調査を続けている。関電は、トラブルの約15時間前に駆動装置の異常を知らせる警報が鳴り、制御棒を固定する器具2カ所のうち1カ所で電圧が通常より低いことが判明したため、詳細点検していたことを明らかにしている。

具によると、詳細点検中に制御棒4本を固定する器具1カ所の電源を切ったところ、3分後に警報が鳴り原子炉が自動停止した。停止前後に中性子量が急減した箇所があり、何らかの原因で制御棒1本が落下したとの見方を強めた。駆動装置には、原子炉補

助建屋内にある制御盤から電気が送られていることから、制御盤の一部部品をメーカーに送るなどして調べている。

高浜4号機は1月30日、原子炉内で中性子量が急激に減少したことを知らせる警報が作動し自動停止した。
(岩淵善郎)